

ジカ熱・デング熱の感染に注意

ジカ熱やデング熱は、ウイルスを持っていて蚊に刺されて感染します。人から人へ感染するのは、血液や体液によるものなど非常にまれな場合で、飛沫感染することはありません。

ジカ熱やデング熱について正しい知識を持ち、予防を心がけましょう。

☆詳しくは、健康係あいぽっく内 ☎545126へ。

ジカ熱とは

ジカウイルスを持っている蚊に刺されて感染します。

症状として、発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛、関節痛、頭痛などが現れ、2〜7日で回復します。症状は軽く、また、出ないこともあるため、感染しても気づかない場合があります。特有の治療法はありません。

●日本国内での感染

感染は、中南米やアジア太平洋地域で多数報告されていますが、国内での例はありません。しかし、海外の流行地で感染

して発症した例が、日本でも報告されています。

●胎児への影響

母子感染による小頭症との関連性が疑われています。

小頭症とは、赤ちゃんが小さい頭で生まれるか、出生後に頭の成長が停止する状態をいい、治療法はありません。

現在調査が行われており、アメリカ疾病予防管理センター(CDC)や日本の国立感染症研究所では、詳しい結果が出るまで、妊婦の方は流行地への渡航を控えるよう呼びかけています。

●予防のために

ジカ熱に有効なワクチンはありません。海外の流行地への渡航を避けることが一番の予防策です。

流行地に渡航する場合は、厚生労働省検疫所や外務省の海外安全情報のホームページなどで、事前に現地状況を確認しておきましょう。

また、現地では、虫よけのスプレーなどを使用する、長袖や

長ズボンを着用してできる限り肌の露出を控えるなどして、蚊に刺されないよう注意しましょう。

●心配な場合は相談を

流行地から帰国する際、心配なことがある方は、空港などの検疫所で相談してください。帰国後は、最寄りの保健所に相談してください。昭島市の担当は、多摩立川保健所 ☎042-524-5171です。

なお、詳しい情報は、厚生労働省や厚生労働省検疫所のホームページでもご覧いただけます。

デング熱とは

デングウイルスを持っている蚊に刺されて感染します。すべての人が発症するわけではありませんが、蚊に刺されてから2〜15日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、関節や筋肉の痛み、発疹などの症状が現れます。特有の治療法はありません。1〜2週間で回復に向かい、出血症状などの重症化はまれと言われ

ています。

●日本国内での感染

デング熱の流行している地で感染した人が、日本国内で蚊に刺され、その蚊がまた別の人を刺した場合に、感染する可能性があります。

●予防のために

デング熱に有効なワクチンはありません。予防のために、次のことを心がけましょう。

*蚊を増やさない

蚊は水がたまる場所に卵を産んで繁殖します。蚊が入らないよう、雨水タンクなどには蓋をしてください。家の外に置いてある用具・容器・鉢植えの皿などは、水がたまったままにならないように片づけましょう。水がたまる場所を片づけられない場合は、定期的に清掃したり水を換えたりする、必要に応じて薬剤を使用するなど、蚊の繁殖を防ぎましょう。

●心配な場合は受診を

症状が疑われる場合は、すぐに医療機関で受診しましょう。夜間・休日は、東京都医療機関案内サービス「ひまわり」☎03-5272-0303(24時間受け付け)をご利用ください。

なお、詳しい情報は、厚生労働省や東京都感染症情報センターのホームページでもご覧いただけます。

また、蚊の生息場所をなくするため、やぶや雑草は定期的に取り除きましょう。

*蚊に刺されない

ウイルスを媒介する蚊は、5月中旬〜10月下旬、主に日中に活動します。屋外では長袖や長ズボンを着用してできる限り肌の露出を控える、虫よけのスプレーなどを使用する、網戸や防虫網などで屋内に蚊を入れないなどして、蚊に刺されないよう注意しましょう。

